

自分たちで島の生活を守る

—「青空復興市」の開催—

宮城県漁業協同組合網地島支所女性部

小野寺 たつえ

1. 地域の概要

石巻市網地島（あじしま）は、宮城県東部にある牡鹿半島の先端南約4 km 沖に位置する周囲20.7km、面積6.4km²の東西に細長い島である（図1）。南東部に長渡（ふたわたし）地区、北西部に網地地区の2つの集落があり、413人が暮らしている。

宮城のハワイともいわれるほど、透明度の高い海と真っ白な砂浜の網地白浜をシンボルに、温暖な気候、新鮮な海の幸が楽しめる宝の島である。網地白浜海水浴場は、東日本大震災の影響で閉鎖されていたが、平成25年に復活し、現在利用できる県内の数少ない海水浴場として、平成27年の夏も多くの人を訪れた。その他、「あじ島冒険楽校」では、子供たちが離島生活を満喫できるなど、海の恵みを生かした漁業と観光の島である。

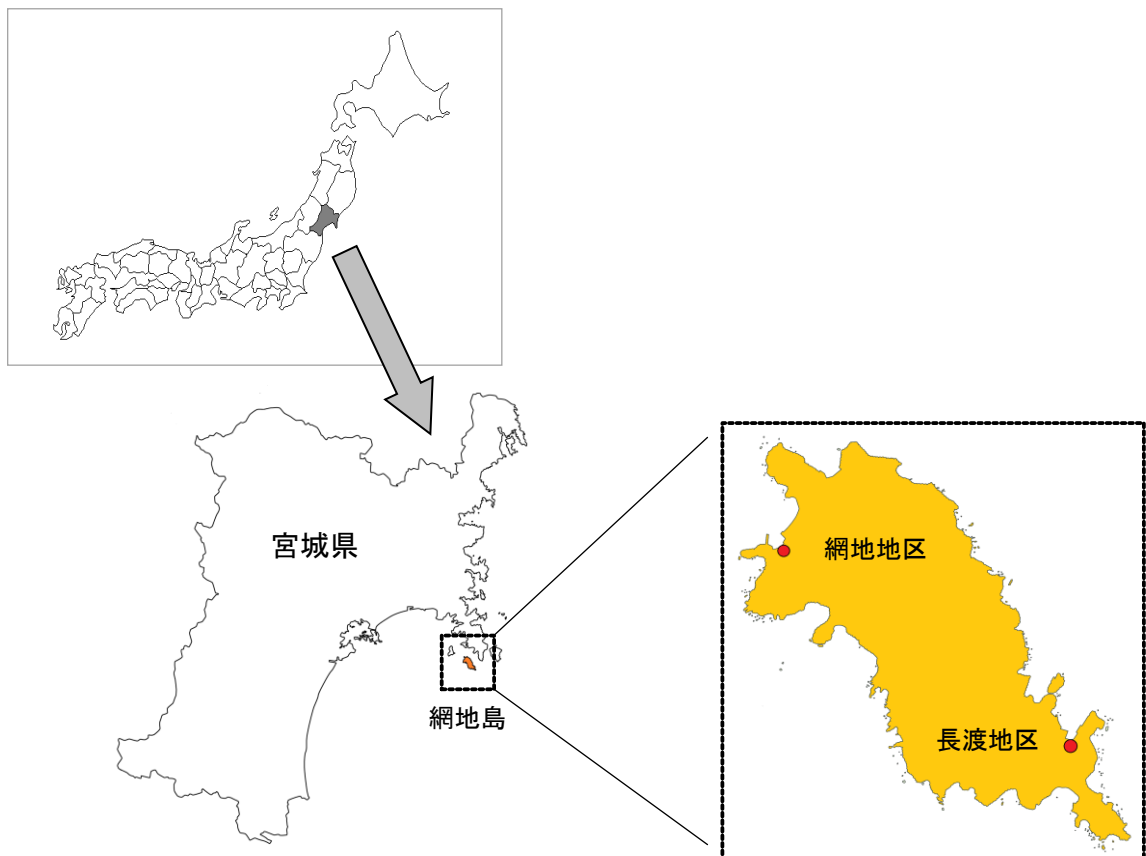


図1 石巻市網地島の位置

2. 漁業の概要

宮城県漁業協同組合網地島支所には、正組合員 78 人、准組合員 152 人の合計 230 人が所属している。

古くから沿岸漁業が盛んで、遠洋漁業へも多くの船員を輩出してきたが、近年は、住民の高齢化が著しく、漁業者数も減少している。現在は、定置網漁業とギンザケ養殖業が漁業の大きな柱である。磯根資源にも恵まれ、アワビ、フノリ等の採介藻漁業が行われ、海女が活躍していることでも知られている。

震災により、漁港や漁船、養殖いかだに大きな被害を受けたが、いち早く復旧に取り組み、平成 26 年度水揚げ金額は約 14 億円と震災前のレベルに復旧している（図 2）。

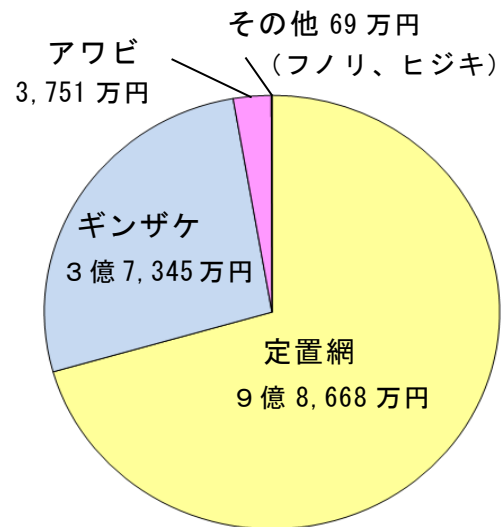


図 2 平成 26 年度網地島支所水揚げ金額

3. 研究グループの組織と運営

私たち女性部は、昭和 42 年に設立され、48 年の歴史を持つ。現在は、部長その他役員を含めて 37 人の部員で構成されている。

主な活動としては、ヒジキやフノリなどの地場製品の加工・販売をはじめ、敬老会や島で唯一の病院である網小医院への慰問といった各種地域行事への参加、ライフジャケット着用推進活動等に取り組んでいる。島の行事や新しいイベントがあるとまず女性部のところに依頼が来るほど、地域の中心的な役割を担う組織になっている。

また、本県では数少ない海女の代表として平成 24 年に韓国で開催された「日韓海女フォーラム」に女性部から 2 人が出席した。これは、日韓共同で海女をユネスコ無形文化遺産に登録することを目指して開催されたもので、被災地の海女として、震災時の多大な支援へのお礼と被災状況を報告した（図 3）。



図 3 「日韓海女フォーラム」での発表

4. 研究・実践活動の取組課題選定の動機

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、私たちの生活は一変した。突然、家がつぶれてしまうと思われるほどの大きな揺れで立つこともできず、壁は落ち、タイルは割れ、土台は裂け、その直後に大津波警報が発令された。そして、私たちの

予想をはるかに上回る 10m を超す波がものすごい勢いで押し寄せ、船、養殖施設などはもちろん、家屋、車、そして人命までありとあらゆるものをのみ込み、海深くへと引きずり込んでいった。

石巻市内だけで 3,000 人以上の人命が失われ、流された家屋は 2 万戸という気の遠くなるような大惨事である。島民の多くは、身内や知り合いが石巻市沿岸部に住んでおり、親しい人が津波の犠牲になった人も少なくない。

幸い、私たちの住む網地島は、船は何十隻と流されたものの、死者 1 人、流された家屋 20 軒と比較的被害は少なかった。しかし、その後の対応は困難の連続となった。島のライフラインは完全にストップし、全くの孤立状態になってしまった。そのような中、私たち女性部は、災害対策本部の一員として、避難所となった公民館で、避難者のために炊き出しを行った。日がたつにつれ、食材がなくなり、困り果てたころ、支援物資が届けられた。うれしくてありがたくて、その時のことはいまだに忘れられない。その一方で、甘えてばかりいられない、自分たちにできることぐらいは、何だってやっていこうと元気が出た。

その後、続々と届く支援物資を公民館で女性部が仕分け、行政区班長が各戸に配る体制が構築されていった。連日の連携プレーで、多忙を極めていたが、震災から 3 カ月が経過したころ、島は自立できる状態となり、市に支援物資の辞退を申し入れ、仕分けに明け暮れた日々が終了した。

そのころ、島の災害対策本部では新たな問題に直面した。これまで島民が野菜、果物、日用品等の生活物資の調達で、頼りにしていた移動販売業者が被災し、再開のめどが立たなくなったことだ。他の業者が見つからなかったことから、女性部が、「業者が見つかるまでのつなぎ」と思い、1 週間に 1 回、島民のために「青空復興市」を開催することになった。

島民の生活を脅かした今回の震災を乗り越え、島民が安心して生活できる基盤を整えることに、この「青空復興市」が重要な役割を果たすこととなった。

5. 研究・実践活動の状況及び成果

「青空復興市」は、震災から約 3 カ月後の平成 23 年 6 月 4 日に始まった。以来、毎週水曜日に避難所になった公民館で開催している。石巻青果市場の協力を得て、生鮮品を中心に約 180 種類扱っており、季節によっては、盆・正月用品など特別品を扱うこともある。

復興市の本部運営は、4 人の女性部部員を中心に行っている。事前注文が基本で、注文書の配布・回収は 13 班ある女性部の班長が担当し、毎週土曜日までに班ごとに注文書を集計する(図 4)。本部はそれを全部集計し、石巻青果市場に F A X で発注する。それを受けて、まず野菜・果物などが火曜日午後に定期船で届き、肉・魚などの生鮮品は復興市が開催される水曜日午前には到着する。商品を公民館に運搬するには、漁協職員の協力を頂いている。新たに届いた商品には値札を付け、各個人の注文内容に合わせて仕分け、箱詰めを行い、最後に合計金額の計算を行う。限られた時間の中、全て手作業で行っており 4 人のチームプレーでいつも乗り切っている(図 5)。

復興市は、水曜日午後 1 時に開店し、注文していた人は代金引換で商品を受け取り

長渡復港市場注文書					注文者名				
品名	数量	品名	数量	品名	数量	品名	数量	品名	数量
じゃがいも(1k入)		トウモロコシ		おかずのり		ゴマ塩		おから	
玉ねぎ(6個入)		パプリカ 赤 黄		福神漬		本だし		松前とろろ	
人参(500g入)		きぬぎや		甘栗		カレー粉		ホルモン 300g入り	
キャベツ		生しいたけ		牛乳		白玉粉		カルビ 300g入り	
大根		ぶなしめじ		ヤクルト		きな粉		牛(焼肉用)300g	
長ネギ		えのき茸		ヨーグルト		だんご粉		オホーツク	
スリムネギ		まいたけ		三ツ矢サイダー		天ぷら粉		バラ肉	
きゅうり(1k入)		エリンギ		パン粉		小麦粉		ロース肉(カツ用)	
もやし		なめこ		豆乳		寒天		豚こま切り	
みょうが		根生姜		焼きそば		まめふ		鶏肉もも	
にら		小松菜		焼肉のたれ		とうふ		鳥手羽	
ほうれん草		スイカ 大 小		すきやきのたれ		油あげ		ひき肉	
白菜		メロン		めんつゆ		あつあげ		ウィンナー	
なす(5本入)		グレープフルーツ		しょう油		凍どうふ		ハム	
さつまいも(1k入)		キュウイフルーツ		みりん		たくあんみそ漬		ベーコン	
レンコン		マンゴウ		ソース		しそたくあん		ちくわ	
ごぼう		サクランボ		マヨネーズ		あさ漬 一本		板かまぼこ	
竹の子		バナナ		白砂糖		黒糖パン		笹かま	
かぼちゃ		温室みかん		ケチャップ		食パン		ギョーザ	
長いも		オレンジ		さつま揚げ		あんもち		さんまみりん	
トマト		ぶどう		みそ(赤)(白)		切りもち		たらこ	
ミニトマト		桃		味付いなりの皮		金時		めんたいこ	
レタス		レモン		パイン		あずき		すじこ	
かいわれ		プラム		鉄板焼きそば		なつとう		さば	
ピーマン		みつ豆		ドンペイ		たまご		ししゃも	
アスパラ		めんこちゃんゼリー		カップヌードル		干しいたけ		赤魚	
いんげん		お菓子類		サッポロミソラーメン		ところ天		いわし	
にんにく		(船)キャラメル		サッポロ醤油ラーメン		板コンニャク		カツオの刺身	
チンゲン菜		ラッカ胎		マルちゃん生ラーメン		糸コンニャク		塩から	
								びんちよしみ	
								小魚佃煮	
								タラ切身	
								アジ(袋入)	
								さけ切身	
								しらす干	
								イカいろり焼	
								イカ一夜干し	
								目めけ粕漬	
								柳かれい	
								サケイカ	
								しそドレッシング	
								紅しょうが	
								ごまドレッシング	
								ハイミー(1K入)	
								サラタ油	
								昆布	
								新若布	
								酢	
								梅干し(1K入)	
								らっきょう	
								ごま和えの素	
								おでんセット	
								キムチ	
								冷中華	
								イチゴジャム・ピーナッツ・ブルーベリー	
								ソフトチリ紙	
								トレットペーパー	
								ティッシュペーパー	

注文した物が品切れの場合もありますのでご了承下さい。(7月～8月)海草開口の際は休ませていただきます。

図4 各戸に配布される注文書

に来る。少し多めに仕入れを行っており、注文していない人も在庫があれば、購入できるようにしている(図6)。公民館を訪れる人が落ち着いた2時半過ぎから、歩行が困難などで公民館まで来られない人のため自宅まで配達を行っており、これが大変喜ばれている(図7)。正直、自分の仕事との両立ができず、復興市の開催自体、やめたいと思うことも多々あるが、復興市を利用する島民から「ありがとうね!」と言われるとうれしくて、またがんばろうと思えてくるのである。

“つなぎ”のつもりで始めた復興市は、毎週継続することとなり、これまでの4年6カ月に延べ190回以上を開催した(平成27年12月現在)。すっかり島民に定着し、安心して島の生活を送ってもらっていることが何よりの成果である。当初は60～70人からの注文を受けていたが、島を離れる人や病気で亡くなられた人もおり、現在は平均40～50人ほどが定期的に利用している。さらに、島に来て漁港の復旧に携わる工事関係者からも注文を受けようになり、間接的ではあるが、島の復旧・復興に寄与することができうれしく思う。



図5 チームプレーで乗り切っている仕分け作業

また、新聞や雑誌でも「青空復興市」の取り組みが取り上げられ、その内容を介して多くの人に網地島やその現状を知ってもらう機会にもなった。



図6 「青空復興市」の様子



図7 高齢者宅への配達

6. 波及効果

高齢化が進む網地島では、一人暮らしの高齢者も少なくない。この「青空復興市」を通して、毎週、注文状況や配達の際に元気な顔を確認することで、私たちは見守りの役割を担うようになった。また復興市が島民同士が集い、会話を交わす「交流の場」や「外出するきっかけ」にもなっている。時折、島の自宅に戻ってきた人が、復興市を訪れてみんなと出会い、喜ぶ姿を見ると本当にうれしく思う。

継続していく中で、わずかだが売上の一部を島のために使うことができるようになった。これは、島の皆さんが復興市を利用してくださって得たものであり、敬老会や網小医院の慰問など、地域行事の際に還元している（図8）。

女性部の結束も復興市を通して一段と強まり、私たち自身、毎週集まって、準備の合間におしゃべりできることも楽しみの1つになっている。また平成27年9月には、宮城県漁協中部地区女性部連絡協議会の巡回懇談会が網地島で開催され、他の地域の女性部役員が復興市の視察に訪れた。私たちの取り組みを少しでも他地区の取り組みの参考にしていただければうれしく思う。



図8 網小医院への慰問活動

7. 今後の課題や計画と問題点

「青空復興市」は、移動販売業者が見つかるまでの“つなぎ”として始めたのだが、なかなか見つからず、いつのまにか5年目に突入してしまった。運営している私たちの平均年齢も70代になり、仕事や農作業、海女の活動もしながら、毎週開催するのは時間的にも体力的にも厳しく、年々負担が増加している。しかしながら、島民に頼りにされている現状では、私たち女性部の一存でやめるわけにもいかず、今後、復興市をどうするかが課題となっていた。

そんな折、平成27年7月に石巻市牡鹿総合支所の職員が「青空復興市」を視察に訪れた。私たちの現状を知り、石巻市で対策を検討することになったのである。行政がこの活動の必要性・重要性を認めてくれて、ようやく報われそうである。とはいえ、離島というハンディもあり、そう簡単に業者は見つからないと思う。見つかるまで、今後もしばらくの間、復興市の活動を続けていく予定である。そして、この取り組みが途切れることなく続くよう、きちんとした形で引き継ぎたい。また、復興市が担っていた高齢者の見守りや交流の場としての機能も、女性部の活動として何らかの形で継続していければと考えている。

「なんとか島のみんなを助けたい。」という一心で始めた「青空復興市」は、島民からの感謝の声に支えられ、石巻青果市場、漁協の皆さんにも助けをもらいながら、女性部で励まし合ってこれまで続けてくることができた。そして何より、私たちがここまで元気に活動することができているのは、震災発生時、全国の皆さまからの多大な義援金、支援物資を送っていただいたおかげであり、感謝の気持ちでいっぱいである。今後も、島民が安心して幸せと希望を持てる暮らしができるように、関係機関、行政と連携して、島の生活を守っていきたいと考えている。